

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

| | |
|--------------------|--|
| 研究課題名 | レンバチニブの継続を妨げる副作用の調査 |
| 研究機関名 | 愛媛大学医学部附属病院 |
| 試料・情報の提供を行う研究機関の長 | 愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者) |
| 研究責任者 (個人情報管理者) | (診療科名) 腫瘍センター (職名) 特任講師 (氏名) 長谷部 晋士 |
| 研究期間 | 研究機関の長の許可日 ~ 2025 年 3 月 31 日 |
| 対象 | 2018 年 4 月から 2023 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうちレンバチニブを服用している患者さん |
| 利用する試料・情報等 | (利用するカルテ情報) 性別、年齢、疾患名、発症時期、合併症、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 (初期投与量・減量状況・中断の有無・継続期間)、副作用 等 |
| 研究の概要 | <p>レンバチニブ投与に伴い、患者に発症している副作用とレンバチニブ投与量をまとめ、レンバチニブの減量の契機となった副作用を調べる。</p> <p>キナーゼ阻害剤であるレンバチニブには、副作用により減量を余儀なくされる現状があるが、長期投与患者の場合、おそらくある一定量に投与量が落ち着くと考えられる。</p> <p>これらのことから、どのような副作用が起こりやすいのか、どの副作用が減量の判断を下されやすいのか、また、この最終的に落ち着く一定量がどのような要因で決定されているのか等を発見したいと思っている。</p> <p>これらの情報を整理することにより、レンバチニブの投与に関する一定の指標をたてることができると思われる。</p> |
| 個人情報の取扱い | <p>収集した情報は名前など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報 (対応表) は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。</p> <p>また、保管される情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審</p> |

| | |
|---------|---|
| | 査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。 |
| お問い合わせ先 | 愛媛大学医学部附属病院臨床腫瘍学講座 長谷部 晋士 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5969 |